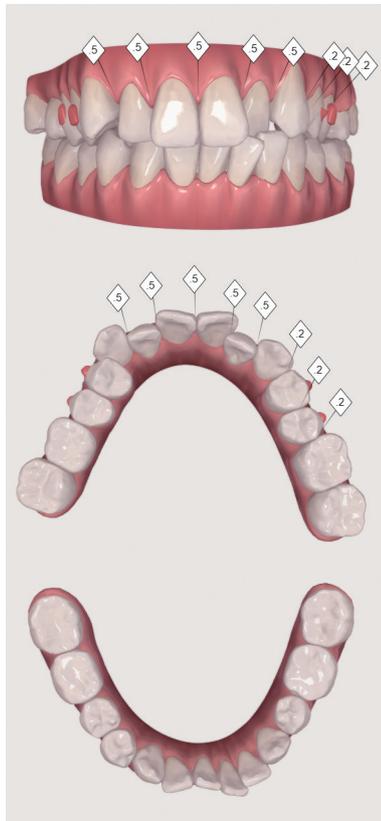


● シミュレーションにもとづいて治療計画の手順を確認

① 治療前の咬合状態 (バイトセット)

クリンチェック項目

最初の位置で表示されている3Dモデルが患者の咬合と一致しているか？



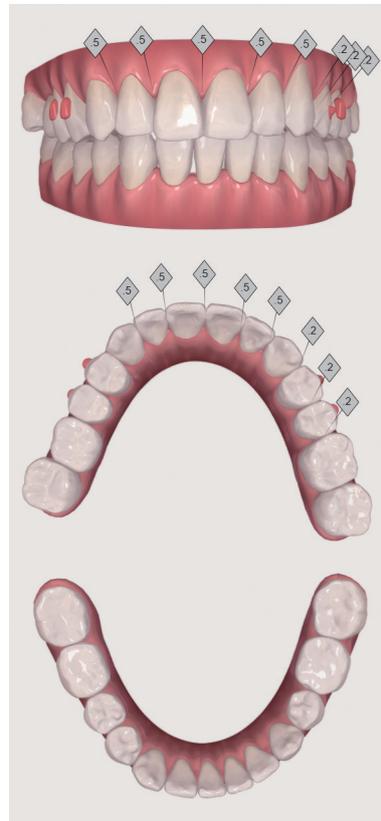
術者の診断コメント

②のクロスバイト、下顎の叢生を認めた。この段階ではクロスバイトにより顎位が大きくズレていないかを中心に診査・診断する必要がある。

② 最終位置 (咬合と配列)

クリンチェック項目

- ・患者の主訴が改善されているか？
- ・審美的結果と咬合に問題はないか？
- ・患者と最終位置に満足しているか？



術者の診断コメント

今回は拡大とIPRにて患者の望む治療が可能かどうかクリンチェック上でシミュレーションしていく。

③ IPR (歯間削合)

クリンチェック項目

- ・IPRが計画されている部位、量は適切か？
- ・先生の具体的な指示に従っているか？



術者の診断コメント

白歯部の咬合は変えないため、前歯部のIPRの必要性を患者に理解させたくうえで、歯牙の動きに合わせたIPRを1ステージ、5ステージ、9ステージ、13ステージと分けて行った。

④ アタッチメントとアライナー機能

クリンチェック項目

現在設置されているアタッチメントで、補綴歯や審美的理由などで、除去を希望するアタッチメントはないか？



術者の診断コメント

本症例の患者は、矯正治療に興味はあるが、装置が目立たないような治療を望んでおり、白歯部の噛み合わせを変化させず、審美的な要素を考慮したため、また、移動が困難な上顎小白歯部位に左右2つずつアタッチメントを装着した。

⑤ 承認



Point

※は予定通り動かないことが多いため、この部位のクロスバイトは注意が必要である。とくに前歯1歯のクロスバイト症例では早期接触による一過性の咬合性外傷や歯牙の動揺が発症する可能性がある。

図 4-2 CASE4 のクリンチェック分析。